

2014 vol.39

UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

P R E S S

特集

団地リスタイル

「住まい」と 「暮らし」の今を探る



Special
Interview

古いものに命を吹き込むDIYは
人生に潤いをもたらす

女優

中田喜子 さん



CONTENTS

01 まちの記憶② 「恋と相性」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす②

中田喜子 さん

女優
古いものに命を吹き込むDIYは人生に潤いをもたらす



07

特集 団地リスタイル

「住まい」と「暮らし」の今を探る

07 住まいのリスタイル

MUJIとURが提案する新しい団地生活スタイル

「だんだんテラス」の一日

自分で作る壁が、暮らしを豊かに彩る「カスタマイズUR」始動

古さを今に生かした団地再生 名づけて「暮粋(くら・しゅく)」

15 暮らしのリスタイル

会わなくても安心できる「近居」という暮らし方を広めたい

子育てひろばから新しいコミュニティーが生まれる

18 住む人に寄り添う新しい団地へ 注目の新チャレンジ

19 ベランダ菜園の楽しみ② たなかやすこ

ミックスシードでいつでもサラダ

20 人気プロガーの団地DIY術② Makees

押し入れ改造で「見せる収納」×「ワークスペース」に！

世界の扉を開く本② 三田修平

テーマ▶リノベーション

21 復興の「今」を見に来て!②

「一本松茶屋」が誕生! 来訪者とのかけ橋に

盛土の上に、復興のシンボル下野野団地が完成

岩手県陸前高田市

25 プレゼント付きクロスワードパズル

26 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.39

2014年10月31日発行

発行 独立行政法人都市再生機構

〒231-8315

神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー

Tel 045-650-0892 Fax 045-650-0889

制作 日本経済社

編集協力 新潮社、編集室りっか

デザイン 太田デザイン事務所

印刷 凸版印刷

※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。

表紙の世界

秋の夜には家々の窓明かりが
とても優しく温かく
感じられます。
そんな風景と、
その中の一부를
描いてみました。

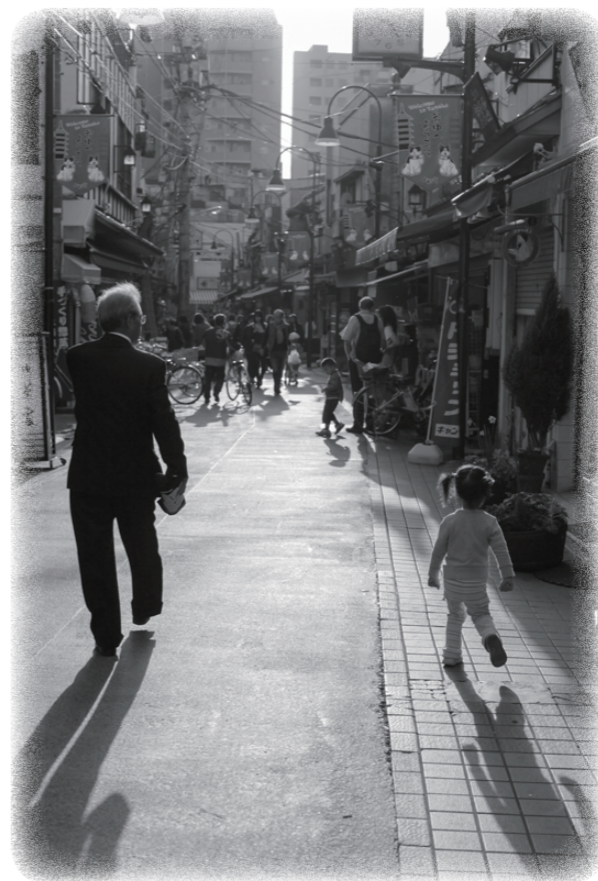
イラストレーション・小林マキ



かくた・みつよ

作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文学賞を受賞しデビュー。『対岸の彼女』(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は「笹の舟で海をわたる」(毎日新聞社)。

恋と相性



住まいと人とは相性がある。 そして人はだれでも、ふだんは

鈍いほうでも、いざ自分の住まいをさがすとき、勘が研ぎ澄まされると思う。二十代のころの私は、引っ越しの回数が非常に多かったのだが、何軒も何軒も賃貸物件を見ていて、そのことに気づいたのである。

扉を開いて、「あ、違う」という部屋がある。なんだか入りたくない部屋もある。扉を開いて、「あ、違う」という部屋がある。なんだか入りたくない部屋もある。扉を開いて、「あ、違う」という部屋がある。なんだか入りたくない部屋もある。扉を開いて、「あ、違う」という部屋がある。なんだか入りたくない部屋もある。

部屋ばかりではない。 町との相性も、き

つとあるんだと思う。けれど、部屋が個人的なつきあいであるのたいし、町は公的なつきあいだから、部屋のように勘が働かない。住んでみてはじめて、「違うかも……」と気づくのではないか。

二十歳でひとり暮らしをはじめたのだが、それまでは引っ越したこともなく、ずっと同じ町で暮らしていたので、住まいや町という人間以外の何かと、相性なんてものがあるなんて、思いもしなかった。それではじめてのひとり暮らしに際して、家賃と築年数の浅さという、条件だけで部屋を決めた。

わくわくと引っ越してきたものの、そこでの暮らしがどうしても好きになれず、わずか十カ月のうちに、べつの町に引っ越した。商店街と飲み屋街の充実した、猥雑でにぎやかな町で暮らしはじめてようやく、あの静かな町とは相性が悪かったのだと気づいた。好き、嫌いではなくそれはやっぱり相性なのだ。

大学を卒業し、仕事をはじめ、 また引っ越す

とき、だから、部屋だけでなく町も重要視しようと決めていた。しよっちゅう

遊びにいった大好きな町と、たまたま友人が住んでいた町と、どちらにしようか悩み、結局、先にいい物件が見つかったという理由で、友人の住む町に引っ越した。その後、その町のなかで引っ越しをくり返し、今年で二十年住んでいることになる。引っ越そうか悩んだもうひとつの町には、今ではほとんど出向くことがない。あの町には、片思いしていたんだなあと今思う。あんなに好きな町だったのに、まったく縁がないからだ。

二十年前、たまたま住んでいた友だちは、今はべつの町どころかべつの県に住んでいる。私は今でもこの町を歩いていると、あのとき、こちらを選んでよかったなあとしみじみ思ったりする。恋より相性を選んでよかったなあ、などと。

中田喜子

さん 女優

古いものに 命を吹き込む

舞台やドラマで活躍する女優の中田喜子さんが、じつは大のDIY愛好者だということ、ご存じでしたか？壁紙張りや椅子の張り替えはお手のもの。DIYの醍醐味は、自分の身の回りのものに愛着が持てるようになることだと語ります。団地のリノベーションにも興味津々の中田さんに、DIYや住まいについてうかがいました。

DIYは 人生に 潤いをもたらす



中田さんが作ったおしゃれなカウンターテーブル。チェアもペンキを塗り、カバーを自作。
「女優・中田喜子のDIY 手作り模様替え工房」より
(アップオン発行 主婦の友社発売、撮影・佐々木幹夫)

昭和初期に建てられた 生家が「住まい」の原点

いままで住んだなかでいちばん思い出深い家は、生まれ育った東京都中央区新富町の家です。昭和初期に建てられた当時では珍しい木造3階建てで、外壁は黄土色っぽいレンガ造り。2階には親族の結婚式をするほど大きな広間もありました。

下町ですから、お隣さんとのコミュニケーションも濃かったですね。内風呂があったので、うちのおじいさんが入ってから、

2番目にご近所の方が入るよう呼びに行くのが私の役目でした。そこに小学校6年生まで住んでいました。

新富町の家は大きかったこともあって、子ども心にはとても暗いイメージでした。いたずらをする2階のお客様用のトイレに閉じ込められるのが、怖くて怖くて(笑)。それに比べて、当時、母の妹が住んでいた団地は、最先端で憧れでした。いと

こもいたので、しょっちゅう遊びに行っていました。うちのお風呂は石炭で焚いて沸かすのに、おばの家はガスをひねればお湯が沸くでしょう。気密性がよくて冬は暖かいし。とても暮らしやすそうに感じました。

団地には、撮影でも訪れました。東宝の撮影所などがある関係で、世田谷区砧の団地をよく使わせていただきましたが、当時は快く貸してくださる方がい

て、おうちの中のロケもあったくらい。日当たりがよくて、棟と棟の間隔も広くて、緑も多くて。敷地が広いせいか、みなさんお花などをきれいに育てていたのも覚えていいます。

私は団地というと連想するのが、鉄の扉なんです(笑)。10代の頃、新しい団地が建っていくと鉄の扉の色がとてもカラフルに感じて、モダンだなあって憧れがありました。共有の廊下から一歩扉の中に入ると自分の空間になることも、とてもすてきに感じられました。

20代で訪れたドイツで DIYの楽しさに開眼

思い返してみると、高校生のときからドアとかドアノブが好きで、解体したりしていたのですが(笑)、20代になって目覚めたのがDIYです。お仕事でドイツに行ったとき、キッチンやキャビネットや階段などの大ものから、細かなパーツまで売っているお店があちこちにあり、向こうの方たちががさういうものを買ってリフォームを楽しんでいるのに衝撃を受けたんです。

当時の日本では、そういうことはプロにしかできないと思われるかもしれませんが。それで、ダメもとでやってみようと思ったんです。

最初に挑戦したのは、壁紙張りでした。実家のリビングの壁紙を自分ではがして、アメリカ製の壁紙を張ってみたんです。照明器具の色に合わせて大きな花柄の壁紙にしたので、お部屋の雰囲気ガラッと変わり、母も「きれいになった」と喜んでくれました。私の場合、最初に成功したことが、その後のDIY好きにつながった気がします。

次は、「塗って」みましたね。テーパーの輪染みを直したくて、紙やすりでこすってニス塗ったり。撮影用のメイク道具を入れるカゴが味気なく感じて、当時出たばかりの「カシュー」という、うるし塗り調の塗料を塗って、持ち歩いたりしていました。その後は、カーテン作りです。カーテンは直線縫いだから簡単なんです。サイズも適当で、短かったら布を足して、長かったら切ってしまう方式(笑)。ヨーロッパで、ひもを引っ張ると

味のある方は一部分だけでもいいからやってみてはいかがでしょう。

成功するための秘訣ですか？ 私は作業に入る前に設計図を見て、段取りを考えます。壁塗りなら、最初は目立たないところから始めて、失敗してはいけないメインの場所は最後にすると、腕も慣れてきれいにできます。ペンキ塗りがうまくできないなら、あえて塗りムラが味になるアンティーク調に塗ってみるのもいいのでは？

そして、やり始めたら決してあせらないで、ひとつずつ仕上げていくことも大切ですね。せっかちにやらずに気長にやれば、必ず完成します。それで居心地悪いなと思えば、また直せばいいんです。

人間にとって、感動は若返りの秘訣だと聞きますが、私にとってDIYはまさに感動そのもの。苦労すればするほど、出来上がったときは、こんなに喜べるものはないのではないかと思うくらい感動します。そして、そんな趣味を持つていることで、若返る気がするんです。

ギャザーができる芯地を見つけたこともあって、家中のカーテンを作り直しました。

なかだ・よしこ
東京都出身、1972年にデビュー。NHKの人気番組「理想ゲーム」の紅組キャプテンとして親しまれ、テレビ、舞台、映画で活躍を続けている。長寿ドラマ「渡る世間は鬼ばかり」の三女・文子役は有名。趣味はDIY。
著書「女優・中田喜子のDIY手作り模様替え工房（主婦の友社）」がある。
8月に幕張で開催されたDIYショーにゲストとして登場。得意の腕を披露した。



普通に作るのに飽きると、気に入っているけれど少し古くなったカーテンを利用して、リフォームを楽しみました。例えば古いカーテンを半分に切って、その間に新しい布を足してパッチワーク風にしてみたり、短く切って、裾にギャザースカートのように新しい生地を足したり。

理想の住まいとは常に進化し続けるもの

日曜大工的なDIYと異なり、リノベーションはより大規模に、古い空間を現代に合うように修繕・修復し内装を改善すること。もし、私が団地のリノベーションの担当者になったら、まず



カラフルで女性にもやさしい愛用の工具。

一部屋が大きくなるように間取りを変えたいですね。それと、消火法などを調べてからですが、できるならキッチンやユニットを壁から離してアイランド式にしてみたいです。お風呂に関しては、日本の浴槽やユニットバスはすばらしいと思うので、そのまま生かします。窓の大き

古いものに少し手を加えることで再び息を吹き返すのが新鮮で、そういうアイデアはなぜかすぐひらめくんです。

ですから、20代で初めて自分のお部屋を借りたときは、すぐくうれしかったですね。ちょうど下見に行ったときにクロス屋さんがいまして、普通のクロスを張ろうとしていたので、「茶色のクロスにしてください」とお願いして(笑)。栓のお風呂だったので、そこから連想して建具をこげ茶色にして、窓にはカーテンではなく簾を下げて、いまでいうアジアンリゾートっぽいインテリアにしたんです。

古いマンションでしたが、自分で手をかけてすくいい空間になりました。それから何か所か住まいを変えているのですが、姉たちも「喜子の部屋って、間取りは決して住み心地がいいとは思えないのに、あなたが家具を入れてインテリアを整えると、すごく落ち着くわね」とほめてくれます。

さは変えられないので、北欧の家のように小さな窓を楽しみながら二重窓にして、インテリアも北欧にします。

ただ、私の経験からいうと、すべてのインテリアのトーンを統一すると面白くないし、空間も狭く感じてしまう気がします。少し異質なものをアクセントに入れるとか、壁なら4面のうち1面を違う色にすると、広がりが出るように思います。

いまの団地には、自分好みでDIYできるお部屋があるそうですね。しかも原状回復しなくてもいいお部屋もあるなんて、最高ですよね(笑)。

自分で団地のお部屋をDIYするのなら、畳をはがして、最近見つけたフランス製のタイルフローリングを張ってみたいですね。見た目は木目調なのに、塩ビ製でカッターで簡単に切ることができ、裏に接着剤がついて簡単に張れるすぐれもの。とても気になってるんです。

古いものを再生し暮らした潤いをもたらす

DIYの醍醐味は、自分で手をかけることによって、身の回りのものに愛着が持てるようになることだと思います。例えば毎日座るダイニングチェアの布地が切れていたら、それを見ながら暮らすより、たとえ歪んでいようと自分で張り替えて新しくなったものに座るほうが気持ちいいでしょう。

古いものでも、自分でDIYすることによって新しい良さが加わって、より味のあるものになる。愛着を持ったものを大切に再生しながら、いつもきれいにした空間に住んでいることは、毎日のゆとりや心の潤いにつながるのではないのでしょうか。

最近はDIYがトレンドになっっていることもあって、材料も工具もとても扱いやすいものが出ています。昔はプロにしかできなかったことが、いまは誰でも簡単にできるようになっているんです。工具もピンク色や赤など、女性でも楽しめるものもたくさんありますし。ぜひ、興

また、団地の天井が低いのが気になる場合は、床に座る生活を楽しんではいかがでしょう。家具もわざわざ新しいものを買わなくても、リサイクルショップで見つけたテーパーの脚を切ってみるとか、板と発泡スチロールのブロックを強力接着剤で張り合わせて台座を作り、布をかぶせてクッションを置けば、低めの椅子ができます。

私にとって、理想の住まいは常に進化し続けているもので、「これ」という決まりは永遠にないと思います。洋服のトレンドと同じで、常に変わっていくものではないでしょうか。それを追い求めながら、これからもDIYを楽しんでいけたらと思っています。

Information

明治座新春特別公演「春日局」に出演



2015年1月2日に幕が開く明治座新春特別公演「春日局」に、中田喜子さんがお勝の方役で出演します。原作・脚本・橋田寿賀子、演出・石井ふく子による舞台です。公演は1月23日まで。

特集
団地リスタイル
住まいと

誕生から60年。
 団地は多彩に進化し続けています。
 自然が豊かで日当たりがよい、
 団地ならではの環境の良さはそのままに、
 昔ながらの住まいを
 現代の暮らしに合うようリノベーションする
 ささまざまな手法を工夫。
 民間企業とのコラボにも積極的です。
 そこに住む人々の間には、
 時代に合った新たな暮らし方や、コミュニティーも生まれています。
 古くて新しい団地、その住まいと暮らしの「今」を取材しました。



MUJI×URの住まいを楽しむ関さん夫妻。「日当たりと風通しがいいので、エアコン1台で夏冬ともにまかなえるのもうれしい」。部屋全体が白で統一され、天井が高く広々とした印象になっている。

住まいのリスタイル **1** from 大阪

MUJIとURが提案する 新しい団地生活スタイル

シンプルで機能的なものづくりで知られるMUJI(無印良品)。
 UR都市機構では、団地のよさに
 MUJIが積み重ねてきた知恵や工夫を掛け合わせ、
 新しい賃貸住宅として蘇らせる
 MUJI×UR団地リノベーションプロジェクトを展開している。
 「生かす」「変える」「自由にできる」というそのコンセプトは、
 どのような住まいとして結実しているのだろうか。

新千里西町団地(大阪府豊中市)にあるMUJI×URの住まい。台所と和室の境を取り払ってワンルームのダイニングルームとし、アイランド型キッチンを設置。奥に見えるのは手作りした食器棚。従来の団地のイメージを一新した。

暮らしの今を探る





そのまま残してある鴨居にマンガ本を並べたのは、夫のアイデア。

close-up



リビングの左はベッドルーム。押し入れは見せる収納スペースにして、空間を有効に使っている。



「この部屋、両親や友人にも好評です」と話す関さん。



柔らかな触れ心地と丈夫さを兼ね備えた麻畳は、このプロジェクトで開発された。

2つの和室のふすまを取り外してワンルームにしたリビングルーム。

押し入れの建具を取り、部屋の一部に。天袋は布で目隠しをして、普段使わない物を収納している。

close-up



歴史ある団地とMUJI

白い空間に、ディスプレイされた小物や棚に並ぶ器の彩りがアクセントを添える。3Kのふすまを取り払ってリノベーションした室内は明るく、広々とした印象だ。

関さん夫妻が結婚するにあたって、大阪・新千里西町団地に作られたMUJI×UR団地リノベーションプロジェクトの住まいを選

んだのは、「極力ものを持たずにシンプルに暮らしたい」という思いにならなっていたから」だという。

駅から近く、緑も豊かで家賃も安い団地ならではの条件の良さはもちろん、日当たりがよく、風通しもいい住宅も魅力だった。住み始めて1年以上経つ今も、とても満足していると口を揃える。

プロジェクトがスタートしたのは、平成24年の6月。UR都市機構の設計担当者、長谷川晋一は、

「60年の歴史をもつUR団地と、『シンプルでいいものを長く使おう』というMUJIは、親和性が非常に高いのではないかと、一緒に組めば何かおもしろい提案ができるのではないかと……。そんなところからMUJI×URのコラボが始まりました」と語る。

こわしすぎず つくりすぎない

東日本大震災以降、これまでの社会のあり方や暮らし方を見直すという気運の高まりを受け、プロジェクトチームは「消費社会に一石を投じるものを作りたい」と議論を重ねた。そこから出てきたのが、「こわしすぎず、つくりすぎず、残せるものは残す」という方針だ。

リノベーションにあたって、本来なら撤去するものでもあえて残し、そこに新しい価値を見つけて生かしていく。現代の生活に合わせて新しくしたり変える部分も、住む人が自分なりの使い方ができるよう、作りすぎずに自由度の高い住まいを考えていった。

空間を小さく区切っていたふすまは取り外すが、柱や鴨居は残し、合わせ、自由にレイアウトできるようにしました」と長谷川。

関さん宅ではテーブルは調理台として使い、麻畳のスペースで食事をしていく。食器棚はボックスに板を渡したお手製だ。数少ない家具類やさまざまな小物も、買う時には本当に必要かをじっくり考えて選んできたという。

「ベースだけある空間に、二人で住まいを作ってきた感覚ですね。この空間に合うものをいかに選んでどう配するか、考えるのはたいへんでしたが、おもしろかった」

夫妻は共に28歳。MUJI×URの住まいの申し込み者は、20代〜30代が7割。「この部屋に入りたい」と指定する人が多く、募集倍率は常に高い。リノベーションの担い手の思いや意図は、若い世代の心に見事に響いているのだ。

現在、MUJI×UR住宅は全国に90戸で、6団地に9プラン。今後も徐々に増やしていく。半世紀前にダイニングキッチンを開地に取り入れ、日本の暮らしを変えたUR。今再び、若い世代を団地に呼び戻し、新しい時代に先駆けたい住まいと生活のあり方を提示している。



学生が365日運営するコミュニティー活動拠点「だんだんテラス」の一日

京都府八幡市の男山団地に、関西大学の学生たちが常駐してコミュニティー活性化の道を探る拠点がある。名づけて「だんだんテラス」。イベントを催し、住民同士の交流をはかる仕組みをつくるなど、若いパワーが古くからの団地に新しい風を吹き込んでいる。

朝 ラジオ体操で一日がスタート

毎朝10時から、「だんだんテラス」の前でラジオ体操が行われる。参加者にはハンコを押し、ハンコが集まるとパーティタイムのドリンクがサービスされる。



朝 朝市の野菜は10分で売り切れることも

学生が近隣の農家を回って野菜を集め、1つ100円で販売する朝市は、週に3回、朝10時から。10分前には人が集まり始めるほどの人気。「安くて新鮮だからね」と常連のおばちゃん。



朝昼晩、人々が段々と集まってきた

「お昼に食べ」
そうやって手作りのおかずを分けてくれるおばあちゃんがいる。散歩のときに立ち寄る人や、ラジオ体操や朝市に顔を出す常連さん、休みの日には小学生も遊びに来る。教室や会合に場を提供しているの



だんだんテラスの責任者、辻村さんは関西大学大学院を修了、現在は地域コーディネーターの肩書をもつ。学生スタッフは全部で15名、うち女性は3名。交代で毎日2、3名がここに詰めている。



昼 のんびりとした時間

「だんだんテラス」のオープンは10時～18時。月に2回バーを開くときは夜10時まで。新しく引っ越してきた人や古くから住んでいる人が、ここで交差しゆるやかにつながる。

夜 「だんだんバー」がオープン

月2回のパーティタイム。お客さんが学生にお酒をごちそうすることも。昼間とは異なる人が集まって、話に花が咲き、笑い声が絶えない。



昼 歴史講座にご近所が集まる

場所の貸し出しは1時間100円。今日は「お気軽歴史講座」の開催。八幡市内に住む会員が集まってきた。



足場として、また住民からの「気軽に立ち寄れる場所がほしい」という声に応えて作られたもの。表から裏に通り抜けられる造りで、誰でも入りやすいようオープンな空間になっている。
「まずは場を設けて、運営については手探りしながら少しずつ整えてきました」と、テラスの責任者、辻村修太郎さんは振り返る。
朝市や、教室などへの場所貸しもそのひとつ。今年の5月からは月刊「だんだん通信」を作成して団地全戸のポストに届けている。最終的には住民が自発的自律的に「だんだんテラス」を運営し、団地の活性化に取り組むことが目標だ。
団地に住む人たちからも「若い人と話ができるのが楽しい」「人が集まれる場ができてよかった」「ここに立ち寄るのが、毎日の暮らしの一部になっていきます」との声が。
ちなみに「だんだんテラス」という名は、「団地について談話する」「段々変わっていく」「手応えも段々と感じるようになってきました」と辻村さん。学生たちが蒔いた種は少しずつ、しかし確実に芽吹き、成長を見せている。

自分で作る壁が、暮らしを豊かに彩る「カスタマイズUR」始動

賃貸の団地でDIYは無理。そんな固定観念を壊すのが、住む人がカスタマイズできるフリーウォールのある「カスタマイズUR」。その満足度は壁一枚以上の価値がある。

事前にペイントショップで塗装レッスンを受けて壁塗りに挑んだOさん。「自分でやるのって、けっこう楽しいです」。



2つの壁の色のトーンを合わせ、棚も手作り。趣味の山登りや旅行の本を飾って。



こちらはグリーンをベースに壁をカスタマイズした部屋。

自分の手で塗り、自分好みに作り上げる

これから住む部屋の壁を、自分の好きな色で塗ったり、その壁の好きな位置に、自分の手で棚をつけたりできたら……。それだけで部屋が個性を發揮して、世界にひとつだけの自分の空間を手に入れることができるだろう。

家の中のさまざまなパーツに手を加え、自分流の暮らしを楽しむDIYがブームだ。だが、DIYを楽しんでいるのは戸建ての持ち家の人が多く、賃貸住宅の団地ではDIYはできないと思っっている方が多い。それに、住戸全体をDIYするとなると、ある程度の技量と経験が必要で、誰もができるわけではない。

そこでUR都市機構が考えたのが、住む人が自分好みにカスタマイズできる壁「フリーウォール」のある部屋。住戸の中のリビングルームの壁一面、または2面だけを、住む人の手で自由にカスタマイズできて、原則、原状回復する必要がある「カスタマイズUR」は、東京の晴海アーバンタワー、品川八潮・潮路南第一ハイットとフレール西経堂で募集しており、DIY好きの間で話題を呼び始めている。

復する必要がない「カスタマイズURプロジェクト」が始動した。東京都世田谷区のUR賃貸住宅「フレール西経堂」で実際にカスタマイズした部屋を見せてもらった。この部屋のフリーウォールは2面あり、1面が淡い水色、面積の狭いほうの壁は、濃いブルーで塗られている。さらに棚も手作り。趣味の本や小物を並べて、オシャレな空間ができあがっていた。

この壁を手がけたOさんは、もともとDIY好きとのことだが、「勢いでこの部屋を契約してしまっただけで、実際に壁塗りなんてできるんだろうかと心配になりました」と述懐する。

だが心配は無用だった。カスタマイズURの契約者には、UR都市機構のサポートがあり、電話やメールで具体的な壁塗りや壁紙張りなど作業の相談をすることができ、実際にはOさんも「楽しみなながら1日で壁塗りができました」とのこと。

現在、「カスタマイズUR」は、東京の晴海アーバンタワー、品川八潮・潮路南第一ハイットとフレール西経堂で募集しており、DIY好きの間で話題を呼び始めている。

古さを今に生かした団地再生名づけて「暮粋(くら・しっく)」

レトロな雰囲気を生かしながら、今の暮らしに合うかたちにリノベーションした住戸が関西で人気だ。その住まい「暮粋(くら・しっく)」を訪ねてみた。



落ち着いた小豆色でまとめられた部屋。右写真の調理台は1.2メートル幅。その右側の空きスペースが洗濯機置き場になる。調理台の裏手が風呂。洗面台とワンフロアでつながり、年を取ってもラクに移動できるよう配慮されている。



若い人が住むことを意識して、白を基調に藍色を効かせた住戸。調理台の左が洗濯機置き場。和室はそのままに、押し入れのふすまをシンプルなデザインに変えた。

年代に合った色、洗濯機はキッチンに

1〜2階は幅広い年齢層が住むことを想定して落ち着いた小豆色を基調にインテリアをまとめ、3〜5階は若年層に好まれる白に藍色を配した爽やかなイメージに。京阪地区の7つの団地でUR都市機構が展開しているリノベーション住戸「暮粋(くら・しっく)」では、懐かしさを感じさせる昔の団地の仕様も生かしながら、床や建具、台所や洗面設備などを刷新して新たに生まれ変わらせている。

きっかけは京都市伏見区にある1962年完成の観月橋団地。老朽化が進んだ団地を建て替えるのではなく、再生させる取り組みが、その始まりだ。驚かされるのは、キッチンに洗濯機置き場が設けられていること。初期に建てられた団地には洗濯機置き場はなく、洗

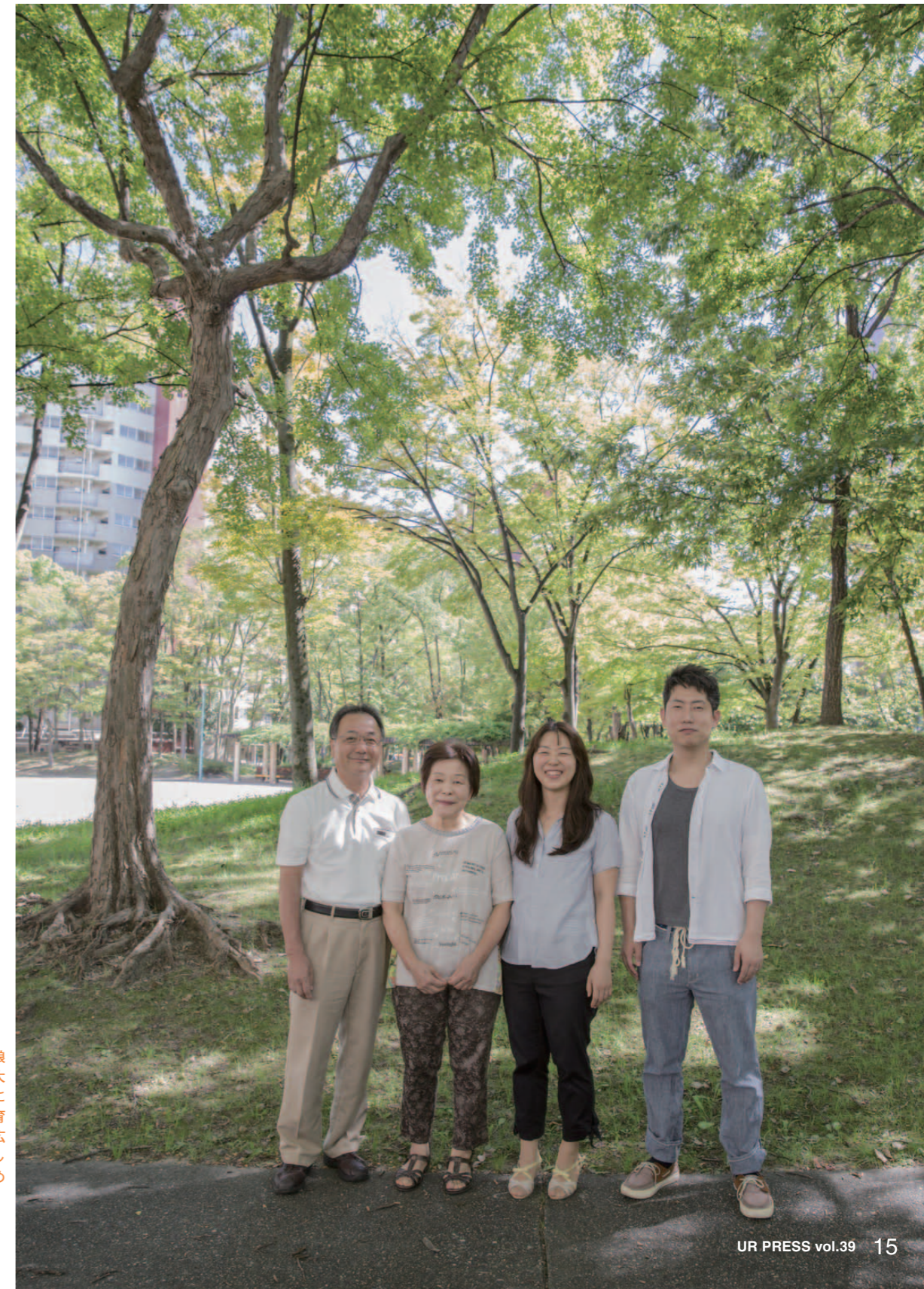
面所や廊下に置いて排水をホースで浴室に流していた。これが古い団地生活のネックのひとつになっていた。

改善しようにも、洗面所に洗濯機パンを設置するスペースがない住戸もある。そこで出てきたのがキッチンに設置するというアイデアだ。洗濯機は洗面所という固定観念があるが、キッチンに置けば水回りの家事が一カ所に集中して効率もよく、むしろ便利な面も多い。まさに逆転の発想といえるだろう。

「暮粋」は基本的な間取りや古い部分を生かしているため、工事量やコストをある程度抑えることができる。だから家賃を大幅に上げることなく、多くの戸数を供給することも可能だ。緑豊かな環境にゆったり建ち、日当たりや風通しの良さを誇る古い団地ならではの長所に、あえて古さを生かしたレトロな魅力や、現代の暮らしに合う設備、インテリアを加えた「暮粋」。幅広い年齢層に支持され、募集すれば瞬く間に埋まってしまいう人気ぶりで、UR都市機構のリノベーションの明日を担う存在として、注目を集めている。

会わなくても安心できる「近居」という暮らし方を広めたい

近隣に住み、適度な距離感を保ちながら高齢者世帯や子育て家族を支え合う「近居」を促進しようと、家賃を割り引く「近居促進制度」。この制度を利用して同じ団地に「近居」しているご家族を訪ねた。



新居は同じ団地 地震への強さも決め手に

名古屋駅から地下鉄で約20分。名古屋市東区にある大幸東団地は、

まるで都会の中のアアシスのように、緑に包まれた高層団地。ここにUR都市機構の「近居促進制度」を利用して住む2組のご家族がいる。藤井英雄さん、美智子さん夫妻

はともに63歳。この団地に住んで26年になる。昨年11月に長女の佑紀さんが結婚、同じ団地で新しい暮らしをスタートさせた。「あちこち住まいを探しましたが、

近居を楽しむ藤井さん夫妻と、娘の松本佑紀さん、夫の武さん。大幸東団地は昭和53年から56年に完成した高層団地。この団地で育った佑紀さんにとって、ここは広場で友達と遊び、ラジオ体操をした思い出の場所。そこに再び住めることの意味は大きい。

「立派な梨をたくさんもらったから」と佑紀さん宅にふらりと届けにきたご両親。「普段は近くにいることすら意識していないんです。でも、近くにいることは目に見えない安心を与えてくれますね」。

交通の便のよさと部屋の広さで、この団地が一番気に入りました。不動産屋さんから「URの団地は基礎がしっかりしているので、地震にとっても強い」と聞いたことも大きかったですね。さらに「近居促進制度」にあてはまるので、僕たちの家賃が5年間5%引きになると教えてもらったことが決定打になりました」と夫の松本武さん。「近居促進制度」を利用すると、松本さん夫妻の場合は家賃が5年間、毎月5000円ほど安くなる。

「月5000円で年間6万円。これはうれしいです」と佑紀さんも目を細める。かくして同じ団地の別々の棟で、2組の家族の近居が始まった。近くにいるという安心感がいい。結婚しても仕事はそのまま続けている佑紀さん。最初のころは仕事と料理など家事のペース配分に苦労したという。「仕事で遅くなったときなど、母

が届けておいてくれたおかげに助けられました」。だが母の美智子さんは「たまたまたくさん作り過ぎたものを、届けただけ。私がおせっかいし過ぎてはいけないと思っています。娘には、自分たちの家庭の味をつくるっていきなさいと言ってるんですよ」と冷静だ。英雄さんも「どちらかが依存すると同居と同じになってしまうので、最初の頃は距離の取り方に気がつかいました」と言う。

近居を始めてそろそろ1年。ドアトゥードアで5分の距離に住む親子だが、「最近暮らしのペースがつかめ

てきました。生活時間帯も違いますが、会うのは2カ月に一度くらいかな」と佑紀さんが言えば、「一緒に食事するのは、四半期に一度くらい」と英雄さんも笑う。若い2人は毎日、両親の住む棟の前を歩いて、駅に向かう。「1カ月会わなくても、安心できるんです。会わなくても、連絡がなくても、あそこにいるから大丈夫と思える。何かあれば飛んでいける距離にいるということは、そういう安心感をお互いに抱かせてくれる。それが近居の一番のメリットではないかしら」

美智子さんの言葉に、皆が満足そうにならずいた。



新しい支援のかたち URの近居促進制度とは

下記要件に該当する世帯同士が、UR都市機構の指定する同一団地、隣接する団地又は概ね半径2キロ圏内にある団地に居住する場合、新たに入居する世帯の家賃を入居後5年間5%割引く制度です(なお、両世帯同時に新規入居いただく場合、両世帯とも割引の対象となります)。

【世帯要件】

■「優遇対象世帯」

- ①子育て世帯：満20歳未満の子を扶養する世帯(妊娠中の方、孫、甥、姪などの親族を含む)。
- ②高齢者世帯：満60歳以上の方を含む世帯。
- ③障がい者世帯：4級以上の身体障がい、または重度の知的障がいなどのある方を含む世帯。

■「近居世帯」

優遇対象世帯を支援する直系血族、または現に扶養義務を負っている3親等内の親族を含む世帯。

東日本大震災を契機に「家族は近くに住みたい」という近居へのニーズが高まったことが、この制度誕生のきっかけです。平成25年9月から本格的に実施しており、利用者は増加中。現在約1,100団地のUR賃貸住宅に、この制度が導入されています。

support



UR都市機構×松竹芸能によるプログラムは、その名も「落語と体操」。笑福亭純瓶さんの落語を楽しむ皆さん。

エクササイズの指導は曾我武史さん。プロデュースは世界陸上銅メダリストでオリンピック3回連続出場の為末さんだ。

落語と体操で健康増進 楽しいプログラムが高齢者に好評

UR都市機構と松竹芸能による、新たな健康増進プログラムの実証実験が始まっている。東京都の豊島五丁目団地では、65歳以上の居住者を対象に「落語と体操」講座(全10回)を開催。落語による「笑い」と、エクササイズの両方が楽しめるお得なプログラムだ。

笑福亭純瓶さんの落語で笑ったあと、陸上競技日本代表チームのトレーナーを務めた曾我武史さんの指導で、転倒予防や膝・腰の痛みの予防に効果のある体操を参加者全員で行う。椅子に座ったままできる体操が中心だが、真面目に行くと軽く汗もかく。参加者同士の話も弾み、笑って心がスッキリ、体もスッキリのプログラムが好評を博している。

団地でヤギが活躍！ ヤギの除草実験拡大中



「ふだんヤギは遠くからしか見られず気になっていたのですが、今日は近くで触れられて楽しかった」と喜ぶ参加者たち。

昨年、町田山崎団地(東京都町田市)で行ったヤギによる敷地内の空き地の除草実験が大変好評だったことを受け、UR都市機構では実験を拡大している。多摩平の森団地(東京都日野市)では今年6月から11月まで、建設予定の空き地の除草をヤギが担当。8月には団地居住者を対象にした夕涼み会でヤギイベントを開催。当日は40名ほどの親子が参加し、ヤギにエサ(好物のクズの葉)を与えたり、一緒に写真を撮るなどしてヤギと触れ合い、盛り上がった。

住む人に寄り添う新しい団地へ 注目の新チャレンジ

UR都市機構では他にも各地で多彩な企画・新たな試みを積極的に推進している。

団地の空き部屋がホテルに アートイベント「サンセルフホテル」を支援

UR都市機構は、茨城県の「取手アートプロジェクト」を支援している。

取手市と東京藝術大学が共同で取り組んでいる住民参加型のアートイベントのひとつに「サンセルフホテル」がある。UR都市機構の取手井野団地の3DKの空室が、イベント時には客室に。団地の居住者約30名が、ホテルマンとしてボランティアに参加し、宿泊客をもてなす。日中は「サンセルフホテル」という名称どおり、宿泊客とホテルマンが総出で太陽光を集め、夜間の客室で使う電気に充てる。UR都市機構では今後こうした取り組みを支援し、団地の活性化、価値向上を図っていく。

<http://sunselfhotel.com/>



ホテル脇に浮かぶバルーン「夜の太陽」。太陽光発電で輝くホテルのシンボルだ。

介護・医療施設を集積 高齢者が安心して暮らせるまちづくり

超高齢社会に向けた団地再生事業の取り組みとして、UR都市機構は、日本生科学研究所とともに、ひばりが丘パークヒルズ(東京都西東京市・東久留米市)に在宅介護・医療の拠点を一体的に整備した。診療所や訪問介護事業所、既存住棟を大規模改修したサービス付き高齢者向け住宅まで、介護・医療施設が集積した「日生ケアヴィレッジひばりが丘」が9月末に完成。このような団地資源を有効活用し、居住者や地域の皆さんと提携しながらの「幅広い世代がいつまでも安心していきいきと住み続けられるまちづくり」を今後も拡大予定だ。

既存住棟を改修してエレベーターを設置した、サービス付高齢者向け住宅。



上/幼稚園情報交換会に集まったママたち。右/「ぶりっじ」でにぎやかにランチタイム。



子育てひろばから新たな出会いがあった皆さん。

暮らしのリスタイル ² from 東京 子育てひろばから新しい コミュニティが生まれる

UR都市機構は団地と近隣住民の子育て支援にも積極的に関わっている。

団地内に設けた子育て支援施設に集うママたちのつながりは、新しい関係を生み、新しいコミュニティを生んでいる。

みんながつながる 「橋」になる

東京都世田谷区、京王線の芦花公園駅から3分ほど歩くと、緑に囲まれた落ち着いた雰囲気のある団地が現れる。UR都市機構の芦花公園団地だ。その一角にあるのが「おでかけひろば ぶりっじ@roka」。UR都市機構がNPO法人せたが

や子育てネットと連携して開設した、プレママと未就園児のための子育て支援施設で、居住者だけでなく、近隣の人も利用できる。「ぶりっじ」のスタートは2010年。今年度から世田谷区の地域子育て支援拠点として体制も拡充し、スタッフ2名が常駐して、月曜から金曜の朝10時から午後3時までオープンしている。代表を務める松田妙子さんは、「お子さんと一緒にここに来て、遊んだり、ママ同士おしゃべりをしたり、ここでお昼ごはんを食べたり。今日、ここで出会った人たちと一緒に楽しく過ごすのが原則です。今や公園デビューではなく、こういった場が、お母さんと子どもたちの出会いの場になっているのです」と語る。

この「場」での出会いをきっかけに、家族ぐるみの付き合いに広がり、新たなコミュニティが生まれるケースもある。

3年前、この団地に引っ越してきた福田あけみさん。当時、知り合いが1人もいないなかでの子育てに不安を抱いていたが、散歩の途中で「ぶりっじ」に立ち寄ったことがきっかけで、何人も友達がで

きたと話す。「ここで知り合った友達と、家族ぐるみの付き合いが始まり、3家族で熱海に行つて、パパはゴルフ、子どもと私たちは近くの温泉で過ごしたり。また別のときには別の仲間と、子連れで釣りに行くこともありますよ」取材にうかがった日には、団地の集会所を利用して、「幼稚園情報交換会」が開かれ、30組近い親子が集まっていた。これも「ぶりっじ」で知り合った先輩ママたちが、自分たちもついている幼稚園情報を先輩ママたちに伝えようと企画されたものだ。



「ぶりっじ@roka」の松田妙子さん。「ここに来られるのは子どもが幼稚園に入るまで。卒業しても、またボランティアで戻ってくるママたちもいます。場所があれば、人は集まってくるんです」。

人気プロガーの 団地DIY術 ②



Before
入居当時の押し入れ

ペンキ塗りは失敗を恐れずに「ダメならもう一度塗り直せばいいや!」くらいの気持ちで。準備が重要で、養生とマスキングテープがうまくいけば、ほぼ成功。

ワークスペースには、夜も使えるようにウォールランプを設置。押し入れ下段にはカーテンとレールを取り付けて、散らかっているときなどは目隠しできる収納に。

After 現在

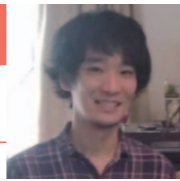


天井も含めた押し入れのペンキは塗っても塗っても終わりませんでした。なんとか完成! 洋服、バッグ、文房具など使う頻度が高いものは、見せる収納、吊るす収納に。天袋にはウォールステッカーを貼り、インテリア性(遊び心)ももたせました。

Blogger

Makees (関東在住 妻と子どもの3人暮らし)

押し入れ改造で「見せる収納」×「ワークスペース」に!



築 50年の部屋を「自分たちで甦らせることができました。どんなに楽しいだろう!」。そんな思いからスタートした団地暮らし。DIYを進めるなかで、思いがけない発見や失敗などいろいろとありました。押し入れもそのひとつ。部屋を明るくしたいと考え、押し入れの木枠をペンキで塗るためにふすまをすべて外した

たときのこと。広くて奥行きがあることに驚いたのです。ふすまを取ると部屋も広く見えました。

すべてオープン収納にする案も考えましたが、試しに押し入れの中板を机にして、以前から使っていた赤い椅子に座ってみると、これがジャストフィット! 偶然が偶然を呼び、押し入れをオープン収納とワークスペース(机)に改造することに決めました。清潔で使い勝手のよいスペースとなり、とても気に入っています。

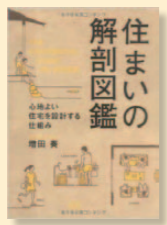
Makeesさんのブログ「築50年の団地再生ライフ」
<http://palette.blush.jp/blog/>

「UR PRESS」オンライン版では関西在住のブロガー Kume MariさんのDIY術を紹介しています。「UR PRESS」で検索してください。次号はKume Mariさんが誌面に登場。テーマは壁、ふすまの予定です。

住まいの解剖図鑑

増田泰/エクスマレッジ 1,800円

リビング、キッチン、お風呂などの住まいを構成するさまざまな要素。それぞれの機能や、どのように配置されていると暮らしやすいかなど、住宅の仕組みやお約束を分かりやすく解説。リノベーションする前に一読を!



LIFECYCLING

イデー/パイインターナショナル 2,400円

インテリアブランド、イデーが手がける人気のWebマガジン「LIFECYCLING」の書籍化。さまざまな職種の人々のおしゃれな居住空間が美しい写真とともに紹介され、こんな暮らしがしてみたいと夢が膨らみます。



団地をリノベーションすることで、自分らしい、心地よい暮らしを実現している東西の人気プロガーが交替でDIYの楽しみ、ポイントを伝授します!

ベランダ菜園の楽しみ ②

たなかやすこ

今号のテーマ

ミックスシードでいつでもサラダ



1 つの袋にレタスなど、生で食べられる5~7種類ほどの葉野菜の種をミックスしたもの(ミックスシード)が、「ガーデンレタスマックス」とか「ガーデンベビー」といった名前で販売されています。これがとても手軽で便利。ベランダ菜園初心者にもおすすめです。

種苗会社がプロの目で選んだ種は、育つペースや草丈がだいたい同じでとても育てやすく、また縮れた葉のものや赤っぽい葉のものなど、見た目のバランスも考えられているので、目でも楽しめます。

春まきもできますが、レタスは暑さが苦手なので秋が種まきの適期。虫の害も少なく、あまり手をかけなくても丈夫に育ちます。

株が大きく育ってから収穫することもできますが、おすすめはベビーリーフの利用。だいたい7センチ程度に育ったら、外側の葉からハサミでカットして使っていくと、中心部から新しい葉がどんどん出てきて長

く楽しむことができます。肉料理や魚料理にちょっと添えると、お皿を生き生きと彩ってくれます。

私は毎年、コランダー(パスタなどの水切りに使う穴開きボウル)を使って栽培しています。コランダーの内側にプチプチのエアパッキンを敷き、10か所程度穴を開けて鉢底石と土を入れて使います。レタスは細い根を横に張るので、これで栽培可能なのです。上から水をかけてざっと土を流し、そのままテーブルに出すことも。食卓でちぎりながらいただくのが楽しいのです。

長く手軽に楽しめるミックスシード。ぜひお試しください。



たなかやすこ
イラストレーター、ガーデニングクリエイター。
1957年北海道小樽市生まれ。著書に「とれたての幸せ。はじめてのベランダ菜園」(集英社)、「おいしいベランダ菜園 シンプル&エコに育てる」(家の光協会)ほか。

育てみよう ミックスレタス

cultivation

虫の害も少ない秋まきがおおすすめです。ベビーリーフで利用するのなら種をまいてから40日ほどで収穫できます。

Step 1 レタスの種はとても小さいので、種をまく前に土に十分水を含ませる。種同士が重ならないようにばらまきしたら、種が隠れる程度に土をかけ、霧吹きで表面を湿らせる。レタスは発芽に弱い光が必要なので土はうすうすと。

Step 2 芽が出るまでは、土の乾燥防止にシャワーキャップをかぶせておくとよい。シャワーキャップには空気用に小さな穴をいくつか開けておく。表面が乾いたら霧吹きで水をやる。



Step 3 芽が出たらとにかく日に当てること。冬は太陽高度が低いのでベランダの手すり近くに置くと光が不足する。高いところに置かかハンギングがおすすめ。水は表面が乾いたらたっぷり。週に1回液肥を施す。



Step 4 密集気味に育てたほうがよいが、とくに込み合っているところは間引く。間引いた葉も食べられる。

Step 5 7センチ程度に育ったら根元から2センチ程度残してハサミでカットする。外側の葉から使うと長く楽しめます。



田中 淳=撮影



東京R不動産
東京R不動産/アスペクト
700円

ブックセレクト
三田修平

みたしゅうへい
ブックディレクター。移動式本屋「BOOK TRUCK」で全国各地のイベントなどに参加するほか、2013年には大倉山集合住宅I(神奈川県)内に「BOOK APART」を開店。
<https://www.facebook.com/Booktruck>

世界の扉を開く本② リノベーション



*価格はすべて税別です



shop 2
ラーメン食堂 岩張楼
営11時30分～16時ごろ
休水曜

新日鉄で働く人々に少しでも早く茹でて出せるように極細にしたといわれる「釜石麺」を使用。たっぷりの海藻がからみやすい。岩張楼ラーメン800円。



shop 3
和カフェ tsuruya
営10時～17時ごろ
休木曜

この地域では昔から冠婚葬祭に欠かせず、なじみの深い「ゆべし」。しそ、ゆず、ニッキ味が2切れずつ入って350円。



shop 1
たがだ屋一本松店
☎0192・22・7700
営9時～18時 休なし

地元でとれる海産物や果物の加工品をはじめ、調味料やお菓子など三陸のさまざまな味覚がそろう。

高田松原の跡地に一本だけ残った「一本松」のモニュメント。



復興の「今」も
見に来て！
第2回
陸前高田市
岩手県 Part 1

「一本松茶屋」が誕生！ 来訪者との かけ橋に

「奇跡の一本松」で知られる陸前高田市に、この夏、地域振興の拠点となる観光施設「一本松茶屋」がオープンした。津波で市の中心部が壊滅的な打撃を受け、市内の7割を超える世帯が被害を受けたまちの未来を担う、地元と来訪者のかけ橋になっている。



「一本松茶屋」を支える皆さん。右から「たがだ屋一本松店」の三浦正克店長、「ラーメン食堂岩張楼」の小澤ひとみさんと西條滋店主、「和カフェtsuruya」の菅野隆店長。

頑張ってます！
日々変わっていく陸前高田を
見に来てください

陸 前高田に「ぎわい」を！との期待を受けて誕生した「一本松茶屋」。8月9日のオープン以来、連日数百人が訪れる人気スポットになっている。旧市街地の沿岸部に建つこの施設には、地

れているのに、彼らが食事する場所がないのが気の毒で、ないなら自分でつくろうと思った」と店主の西條滋さん。岩手県産の豚肉をはじめ、メカブやフノリ、昆布など使用する食材の多くは地元産。三陸の磯の香りが詰まった岩張楼ラーメンが一番人気だ。一方、「和カフェtsuruya」は、地元老舗「つるや菓子店」の菅野隆さん一家が一念発起して始めた店。津波ですべて流され、最近まで廃業を考えていたという菅野店長にとって、復活の決め手となったのは、伝統のゆべしを継承したいとの強い思いだ。「それに加え、震災後、このまちへ足を運び、物心両面で支えてく

Rikuzentakata Data

陸前高田へ

岩手県沿岸部の最南端、広田湾を中心に広がる陸前高田は、古くから今泉街道を中心に発展してきた地域。アクセスは、東北新幹線・一ノ関駅から車で約90分、大船渡市から車で約30分。大船渡⇄陸前高田⇄気仙沼間をJR大船渡線BRT（バス高速輸送システム）が運行している。

観光ガイド
陸前高田を未来へ語り継ぐための観光ガイドや震災語りへの活動も行われている。被災地&観光ガイド（一本松、旧市街地、旧道の駅、気仙大工左官伝承館など）は1時間、3,000円～。

◆陸前高田の観光・物産などの問合せ
陸前高田市観光物産協会
☎0192・54・5011

左／陸前高田復興まちづくり情報館では、震災前後の様子や復興の状況、UR都市機構の活動などを写真とともに詳しく紹介している。下／一本松へ向かう通路の途中に造られた見晴台からは、旧市街地が一望できる。



「また来るから」の言葉で
信じて頑張れる

人々の交流の場として、すでに陸前高田に不可欠な存在になっている「一本松茶屋」だが、営業は2018年（予定）までと期間限定。「何かのときには津波が一番に来る場所ですから、有事の際には避難を呼びかける役目も担っています。私は最後に逃げる覚悟です」あの津波が来たあとのことを思えば、怖いものは何もないと語る三浦店長にとって、最近の楽しみは、日に日に旧市街地のかさ上げ

元物産品を扱うショップ「たがだ屋一本松店」をはじめ、「ラーメン食堂岩張楼」と「和カフェtsuruya」が入居している。運営管理を担当する陸前高田地域振興株式会社の管理部長兼「たがだ屋一本松店」店長の三浦正克さんは、「ここをまちの玄関にしたい」と語る。



一本松駐車場にオープンした一本松茶屋。一本松までは徒歩圏内。

本松茶屋に立ち寄ってもらい、ここから内陸へ足を運んでもらえたらうれしいですね」

来訪者にとっては、お土産を買ったり飲食ができる楽しみに加え、お店のスタッフに震災前の様子を聞いたり、「あそこにあったお店はどこに行ったの？」と直接確認できるという魅力もある。

「悲しいことに、生まれ育ったまちながら、だんだんに記憶が薄れてきているんです。写真を見ないと思いきや、それでもここに何かあったのと聞かれたら、たいてい答えられますから」

三浦店長は情報を伝えることも自分たちの役目だと考えている。**応援してくれた方々への恩返し**

来店客が途切れない「ラーメン食堂岩張楼」の創業は震災後。「全国各地からボランティアに来てく

の盛土が高くなっていくこと。「お客さんにも何度も来てもらって、変わっていく様子を見てもらえたらうれしい。来てくださった方は皆さん最後に、頑張れよ、また来るから、と言ってくれます。その、また来るからが心に響くんです。その言葉を信じて頑張れる。負けるものかと思う。そして本当にまた来てくださる方がいる」三浦店長はじめ「一本松茶屋」の皆さんは、多くの人に支えられていることへの感謝を口にしている。けれども来訪する人々も陸前高田の方々からパワーや勇気をもたらしているのだ。人やモノ、情報や思いが交差する新たな拠点「一本松茶屋」の存在は大きい。





「希望のかけ橋」と呼ばれるベルトコンベヤーが、川を渡り旧市街地に向かって延びている。「動く歩道」と間違える人も多いとか。山から削り出した土砂や岩を30cm以下まで破砕して搬送。日々、大量の土砂が積み上げられている。

ベルトコンベヤーのはき出し口は5カ所。そのひとつを背に、盛土工事の進捗状況を確認する、陸前高田復興支援事務所基盤工事課の綿谷光城(右)と西村大(左)。

陸 前高田の復興まちづくりは、岩手県内最大規模。被災した旧市街地を平均7〜8メートルかさ上げするという工事であり、必要な土砂も膨大だ。そこで活躍しているのが、幅1・8m、総延長約3kmの巨大なベルトコンベヤーだ。今年7月から全区間で稼働し始め、ベルトコンベヤーが山から旧市街地へと延びる光景は、世界から注目の的になっている。このベルトコンベヤーは大量の土砂を安全かつ迅速に、環境に配慮して搬送できるのが特徴。驚くのはその搬送能力で、1日8時間稼働した場合、約2万㎡、10トン

ダンパー4000台相当の土砂が搬送可能。それだけのダンパーがまちなかを走った場合のことを考えると、いかに渋滞緩和や環境、安全面への配慮、工事期間の短縮に貢献しているかがわかる。かさ上げ地域で建築工事に着手できるのは、早いところでは2015年半ばの予定。その目標に向けて懸命な作業が続けられているが、必要な土地の使用許可は2000人規模。その地道な作業の終盤を担っているのは、UR陸前高田復興支援事務所の綿谷光城と西村大だ。通常のニュータウン開発では、計画がある程度固まってから土地

新たなまちづくりに向けて日々奔走中！

広島土砂災害地域への支援

8月に広島市で発生した土砂災害で被害を受けた皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。UR都市機構では、被災された方の一時避難先として、広島市内のUR賃貸住宅を提供しています。

また、東北大学在学中に東日本大震災を経験した西村は、東北のために役立つ仕事を志願して入社。3年目の今春、念願かなってこの地へ配属に。工事の規模の大きさに驚きつつも、やりがいを感じる日々だという。一日も早い復興へ、という共通の思いを胸に、UR都市機構職員の奮闘が続いている。



復興の「今」を見に来て！ 第2回 陸前高田市 岩手県 Part 2

コミュニティ形成に配慮した集合住宅が完成しました

UR陸前高田復興支援事務所の小林章。下和野団地には、公団住宅一筋の40年間に培ってきたUR都市機構のノウハウを盛り込んだ。



盛土の上に、復興のシンボル 下和野団地が完成

UR都市機構は、陸前高田市と2012年3月に協力協定を締結し、復興まちづくりを推進している。全体としては津波による浸水を免れるための高さの確保(盛土によるかさ上げ)を行い、山側にシフトしたコンパクトな市街地を新たに形成する計画。復興市街地整備事業2地区、災害公営住宅4地区の業務全般、総合整備をURが担っている。

陸 前高田の中心市街地に近い高台に、この秋に完成した災害公営住宅「下和野団地」が注目を集めている。UR都市機構が手がけた大規模集合住宅で、まちの復興のシンボルになっている。10月から入居がスタートした下和野団地を穏やかな表情で見つめるのは、UR陸前高田復興支援事務所の小林章だ。震災発生直後の2011年4月に派遣されて以来、地縁血縁のないこの地で復興に尽力してきた小林にとって、市の災害公営住宅第1号である下和野団地の完成は喜びもひとしおだ。赴任当初は、被災された方々を訪ね歩いてヒアリングする浸水被害調査からスタート。その後、行政と連携しながら復興計画を作成、災害公営住宅の建築現場をまわってきた。試験的に先行して盛土し

下和野団地設計のポイント

1 復興のシンボルとなる建物

この地で伝統的な寄棟や入母屋住宅の雰囲気を感じつつ、南棟と北棟をつなぐ立体的な設計に。

2 住棟をつなぐ回廊を2階に

歩車分離されている2階部分に回廊を設けて避難路を確保。あわせてミニコモンスペースを屋内外それぞれに設置し、居住者の憩い、交流の場とした。



3 南棟最上階に設けた集会室

コミュニティの核となる集会室を、南棟の最上階(6階)に配置。緊急時に100人程度が避難できるスペースを確保し、太陽光利用による電力供給システムも導入。

4 1階に店舗・福祉施設を設置

にぎわい創出、居住者の利便性の向上および商業者の生活再建を図ることを目的に、南棟1階部分に店舗・福祉施設が入居できる6区画を設置。

このほか、見守りに配慮して、共用廊下に室内の明かりが漏れる工夫もされている。

地に建設した下和野団地の設計にあたっては、「近くに商店がある」と便利という住民の声や、「伝統の寄棟屋根の雰囲気を残してほしい」といった行政の希望を踏まえながら、UR都市機構ならではのノウハウや工夫、配慮を随所にちりばめた。陸前高田には、大変な状況でも明るくふるまう気丈な人が多くて助けられたと語る小林だが、自身も仕事上の苦労はほとんど口にしない。赴任から3年半、途中で帰りたいと思ったことはないという。「私の役目は、地域住民に寄り添った住まいづくり。市の意向を十分に理解して計画・設計に反映させることが重要です。骨を埋める覚悟ですから」と静かに語る小林から、仕事への責任感、そして矜持が伝わってくる。

を整備するという流れだが、復興現場ではスピードを重視して同時並行。「被災された方が1日も早く住宅に入れるように、工事がスムーズに進むように、住民のご理解、ご協力を得るための調整、地固めを進めています」と語る綿谷のモットーは、「変化に柔軟に」。打たれ強さを武器に、円滑に工事を進められるよう関係者との調整に奔走している。

また、東北大学在学中に東日本大震災を経験した西村は、東北のために役立つ仕事を志願して入社。3年目の今春、念願かなってこの地へ配属に。工事の規模の大きさに驚きつつも、やりがいを感じる日々だという。一日も早い復興へ、という共通の思いを胸に、UR都市機構職員の奮闘が続いている。

UR都市機構からのお知らせ

INFORMATION

UR賃貸住宅の 新テレビCMスタート!

UR賃貸住宅のブランドがスタートして10年を迎える今年、新たなテレビコマーシャルを制作しました。

キャッチコピーは、お客さまのライフスタイルに合わせてUR賃貸住宅を選んでいただきたいとの思いを込めた「あなたらしくYOUR賃貸」。CMは全部で4種類。①DIY編、②近居編、③若者編の3種類に加え、今年結成20年を迎えるゴスペラーズが歌うUR賃貸住宅のイメージソング「Looking for your love」と3種類のテレビCMを1コマずつ挿入した④ゴスペラーズ登場編の計4種類です。

新CMは随時放映中。下記サイトでは、CMおよびゴスペラーズのスペシャルインタビューやCMメイキング動画をご覧いただけます。

<http://www.ur-net.go.jp/kanto/brand/>



■UR賃貸住宅のイメージソング「Looking for your love」が、ゴスペラーズのニューアルバム「The Gospellers Now」に収録されています。

「The Gospellers Now」



初回生産限定盤
CD+DVDフォトブック付き
3,500円(税別)



通常盤
CD 3,000円(税別)

■ゴスペラーズにしかできないシアトリカルツアーがスタート。詳しくはオフィシャルホームページをチェック。

<http://www.5studio.net/>

震災復興3年史

「東日本大震災 震災復興支援事業 3年の歩み 被災地の皆さまとともに」を発行

震災発生から3年半が経過し復興支援事業が本格化しているなか、特に、復旧・復興の初期期において、UR都市機構がどのように課題に取り組んできたかを記録した冊子を発行しました。

今回の震災復興支援でUR都市機構が学んだことを多くの方に早くお知らせしたいという思いから、復興半ばのこの時期に作成したものです。本誌はUR都市機構のHPでご覧いただけます。

<http://www.ur-net.go.jp/saigai/ayumi/index.html>



環境報告書

平成26年版 環境報告書 「まち・住まいと環境」が完成

UR都市機構は、平成25年度の事業活動における環境配慮の取り組みについてまとめた、平成26年版環境報告書「まち・住まいと環境」を発行しました。

本報告書は2分冊で構成しています(本編は省資源を図るため、ホームページ上のみで公開)。ぜひ本報告書をご一読いただければと思います。また、広く皆さまからご意見・ご感想をお待ちしております。

本報告書(本編・ダイジェスト)は、以下のURLからご覧いただけます。

<http://www.ur-net.go.jp/e-report/>



From Editors

「これが団地?」と、皆さまに驚いていたいただきたい一心で、今号は関西、中部、関東と取材で飛び回ってきました。昔ながらの良さを残しながらも現代的でオシャレなリノベーションやDIY。本当に素敵な住まいばかりでした。

取材後、独り暮らしで散らかし放題の部屋に帰宅した私の頭の中は「……」。反省と同時に目下、整理整頓、模様替えに動いている次第です。(UR都市機構・広報担当M)

次号のお知らせ

「UR PRESS」40号は
2015年1月末発行予定です。お楽しみに!

「UR PRESS」オンライン版も お楽しみください!

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。巻頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひご覧ください。

UR PRESS

で 検索

<http://www.ur-net.go.jp/publication/web-urpress/>



URのツイッター

UR都市機構のツイッターでは、イベント、キャンペーン、募集情報などをタイムリーに発信しています。こちらもぜひアクセスして、最新の情報をゲットしてください。

https://twitter.com/UR_TOSHIKIKOU/



プレゼント付きクロスワードパズル

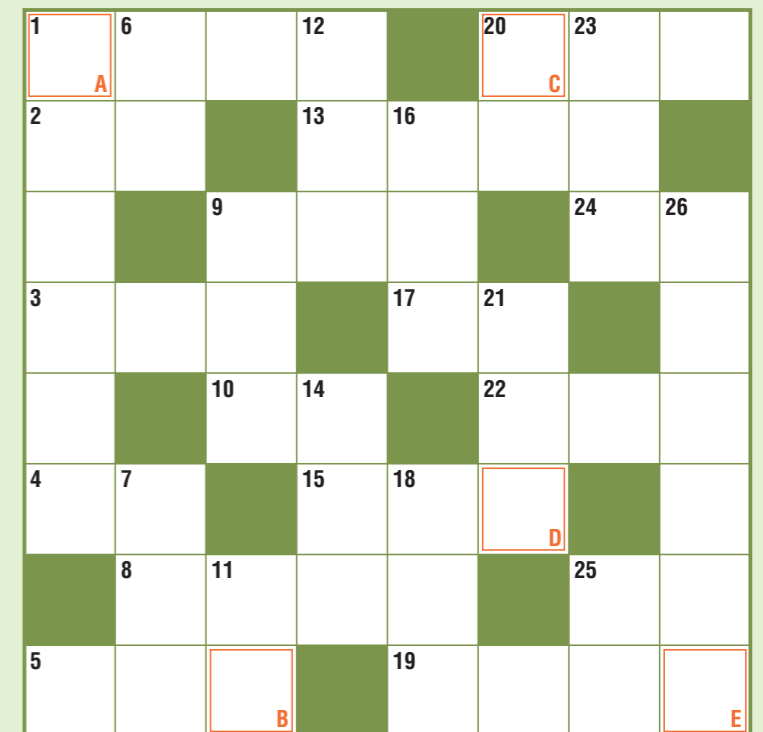
パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- LDKのL
- 2つのこと。——ショット
- 月見やおかめやカレーがある種類
- 腰掛けるための家具
- カレー—— ハヤシ—— ——ペーパー
- バーや酒場の主人をこう呼ぶことも
- 顔にかぶるもの。これをつけて行う舞踏会もある
- に交われば赤くなる
- 買い物に行ってくるから——していてね
- 暮らしていく中でかかるお金。——簿
- レモンを搾ったら——が残った
- ほほえみ。アルカイック——
- 部屋の広さをこれの枚数に換算したりします
- クレジット—— キャッシュ—— イエロー——
- 栗の実を包むとげとげ
- カギのこと。——ホルダー

タテのカギ

- 一般的なサイコロの形
- 地下を表すアルファベット
- 暮らしている場所
- 防犯のため、——カメラを設置しました
- ストーブの中に溜まった——を取り除こう
- おいしいものに目が無いタイプ
- これを着て夏祭りに行ったり、温泉旅館で着たり
- を惜しんで働く
- 入れ物。スーツ——、衣装——
- になってかかってもかなわないや
- 空のこと。——ブルー
- 日本の通貨——は円です
- 日本一大きな半島は——半島
- 自動車から歩行者を守ります



プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、
プレゼントにご応募ください。

PRESENT 陸前高田

1 つぶつぶジャム(赤) 5名様

陸前高田の神田葡萄園オリジナルのぶどうジャム。色鮮やかなベリー果汁にデラウェアの粒が贅沢に入っていて、口当たりはさらっと爽やか。ヨーグルトや紅茶と一緒にどうぞ。



PRESENT

2 「東京R不動産」 3名様



リノベーションブームの火付け役となったウェブサイト「東京R不動産」の魅力が凝縮された一冊。眺めて楽しんだり、実際に住みたい物件を探したり、自身で行うリノベーションの参考にしたり、いろいろな楽しみ方ができます。

●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

●応募締め切り

2015年1月31日(当日消印有効)

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

38号の解答

A ナ B ツ C ヤ D サ E イ

